

仲間と交流し、情報を共有することで
より良い農業に繋がると実感しています。



農業に懸ける情熱



1 就農したきっかけ

父が農業を営んでいたこともあり、幼い頃から「いつかは自分も農業を継ぐのかもしれない」と漠然と考えていました。しかし、小学4年生から始めた野球に夢中になり、プロ野球選手を目指して本気で取り組んでいたため、農業は時折手伝う程度でした。

高校生のときにプロ野球選手の夢を断念し、大学に進学するか就農するかで悩んだ末、「大学に進んでも最終的に農業を継ぐのであれば、今すぐ農業に携わって経験を積んだ方が良い」と考え、高校卒業と同時に就農しました。

2 就農当時のこと

農業に携わることに對して特に抵抗はありませんでしたが、実際に就農してみると想像以上に大変でした。野球一筋だった私にとって、農業の現場は未知の世界で、慣れない作業に苦労しました。

そんな中、青年部や4日クラブに参加したことが大きな転機となりました。多くの仲間と交流し、農業に関する新しい知識や情報を得たことで、少しずつ農業に対する理解が深まり、農作業にも慣れていきました。

3 青年部活動について



地元の先輩から誘ってもらったことをきっかけに、就農と同時に青年部へ加入しました。青年部の活動は地元での活動から、コロナ禍以前には海外研修まで幅広く展開されており、どれも楽しく貴重な経験となりました。活動を通して、普段は接点のない地域の農家とも交流することができ、人脈が広がったと実感しています。右も左もわからない状態でも農業を始めた私にとって、気軽に相談できる仲間ができたことは大きな支えであり、かけがえのない財産です。

現在は北村支部の副支部長を務め、運営側として活動を行っています。これから青年部に参加する人たちにも、楽しく活動しながら、かけがえのない仲間を作ってもらえるよう、今後も積極的に青年部の活動に取り組んでいきたいと考えています。

4 仕事をする上で大切にしていること

さまざまな人の意見や情報を参考にしながら、作物に必要な技術や知識を積極的に取り入れるよう心掛けています。農業は自然が相手なので、天候に左右されるほか、自分の知識不足により小麦が倒伏してしまうなど、思い通りに作業が進まないことも少なくありません。そうした困難に直面したとき、一人で抱え込むのではなく、青年部をはじめとした仲間と情報を共有したり助け合ったりすることで、より良い農業につながると実感しています。

農業は一見孤独な仕事に見えるかもしれませんが、実際には多くの人のつながりや意見交換があつてこそ、個人では成し得なかった成果を生み出すことができます。

農業には明確な「ゴール」がなく、常に試行錯誤の連続です。思うようにいかないこともありますが、努力の末に収量が増えたときの達成感は格別です。まだまだ学ばなければならないことが多くありますが、今後面積が広がったり、父から経営を引き継ぐことになっても、安定した農業経営を続けられるよう、これからも積極的に学びながら農業に取り組んでいきたいと思っています。



人物 memo

岩見沢市中幌向町
池田 拓馬 さん(34歳)

父の稔さん、弟の慎哉さんの家族3人で約35haの農地に水稻や小麦、大豆を栽培。進路として大学進学か就農かで悩んだ末、いち早く農家としての経験を積むために高校卒業と同時に就農。

現在は青年部北村支部の副支部長も務め、充実した農業生活を送っています。